

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：濱田幸雄 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：岩田利枝 主 査 名：古賀貴士
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住者の集合住宅における要求性能水準の調査 ・ 暗騒音を考慮した室間音圧レベル差、床衝撃音レベルの要求性能の提案 ・ 「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」を AIJ-ES に移行するための実験・測定データの収集 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：濱田幸雄 (日本大学) 幹事：岩本毅 (三井住友建設) 委員：大内孝子 (建設環境研究所), 大脇雅直 (熊谷組), 古賀貴士 (鹿島建設), 須賀昌昭 (住宅リフォーム・紛争処理支援センター), 坪井政義 (大林組), 羽染武則 (東急建設), 浜田由記子 (大成建設), 藤本一壽 (九州大学), 向井達郎 (OTO 技術研究所), 山下恭弘	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2017 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. なし
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 変動する室内騒音下における特定外部騒音の評価に関する検討 各種文献の読み合わせ, 討論を通して, 聴感実験の方法が結果に大きく影響することが再確認され, 慎重に進めることとした。 2. 鉄道騒音の測定・評価法の妥当性を検討 時間重み特性 S の最大 A 特性音圧レベルより単発騒音暴露レベルを算出し, この値より等価騒音レベルを算出することの有用性を確認した。
委員会活動の問題点・課題	特になし

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	(A)	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>音環境規準検討小委員会からの依頼事項である鉄道騒音の測定方法を検討するために、昨年度収集した新幹線、在来線の録音データを分析し、現在評価に用いられている各種評価量同士の相関関係を検討した。その結果、測定の簡便性、再現性の高さなどから各種測定量として用いられている時間重み特性Sによる最大A特性音圧レベルより騒音暴露レベルが精度よく算出され、騒音暴露レベルから等価騒音レベルが予測できる見通しを得ることができた。等価騒音レベルは騒音の評価量として広く国際的に用いられているものであり、また衝撃性騒音にも対応できることから、本委員会としては最終的な評価量は等価騒音レベルとし、測定量としては暗騒音の影響を受けにくい時間重み特性Sによる最大A特性音圧レベルとすることを想定している。この測定量から等価騒音レベルの算出方法を提案できるか慎重に検討する。ただし、聴感的な対応が重要であることから、次年度の聴感実験の結果を踏まえて、最終的な提案をする予定である。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。